

戦後日本の学校と組合 ～高校教員の蔵書から～

会期：令和5年12月2日（土）～26日（火）

久留米市立六ツ門図書館展示コーナー

令和5年10月30日付けで本市が寄贈を受けた山本義人氏旧蔵資料を初公開します。山本義人氏（1931～2021）は、昭和31年（1956）に社会科の新任教諭として明善高等学校に赴任、同51年（1976）に久留米高等学校、平成元年（1989）に大川工業高校へ転任しました。また、労働組合運動にも携わり、筑後革新懇に所属しました。

本資料群は、そうした経歴と活動の中で集積された蔵書を中心とし、61件71冊を数えます。今回の展示では、学校の配布物、教科書、労働組合関係の冊子など、計8冊を展示公開します。



●No.1「新入生のしおり」

昭和36年（1961）

入学式の案内や職員一覧のほか、教育方針や教育課程、科目の履修に関するなどが記されています。職員一覧には「山本義人」の名が見えます。また、全職員及び生徒が組織対象である校友会、在校生の親が運営する父兄会、卒業生が運営する同窓会の規則も紹介されています。校友会は、現在の生徒会のような役割を担っていました。

●No.3『民主主義 上』

昭和23年（1948）

民主主義の制度や、政治の在り方に関することを解説したものです。はしがきでは、第二次世界大戦の経験を踏まえ、民主主義の道を歩むことこそが日本再建の道であると説かれています。民主主義の本質として、筆者は「すべての人間を個人として尊厳な価値を持つものとして取り扱おうとする心」を挙げています。

●No.2「明善高等学校（全日制）職員必携」

昭和36年（1961）

学校教育に関する法律に始まり、校務運営規定、教職員組合の規約など、教員が勤めるうえでの必要事項が記されています。昭和27年にも、諸法規・諸規定を編集した冊子が配布されましたが、火災により多くが焼失してしまいます。また、配布後に諸規定が改変されたため、内容を一新して再配布されたのがこの冊子です。

●No.4『続 民主主義 DEMOCRACY』

昭和24年（1949）

No.3が、欧米諸国で発達した民主主義に関する一般的な原理を説明していたのに対し、本資料は、日本における民主主義の歴史を解説しています。「民主主義の学び方」の章では、新しい教育制度に基づいてつくられた校友会について紹介しています。校友会の活動は、民主主義の原理を実践するうえで重要な意味を持っていました。

●No.5『明善文学 冬期創刊号』

昭和 32 年(1957)

明善文学部が出版した文学雑誌です。広川町出身の医師で詩人の丸山^{まるやまゆたか}豊が特別寄稿をしています。丸山は、中学明善校(現明善高校)時代に、同級生の河北^{かわきたみちあき}倫明(美術評論家)と行った創作活動を振り返りました。上級生の石田^{いしだみつあき}光明、明善校付近で文具店を営んでいた野田^{の だ う た ろ う}宇太郎(共に詩人)との文芸活動についても綴っています。

●No.7『ちから 別冊 組合結成 10 周年記念号』

昭和 31 年(1956)

日華^{にっか}ゴム労働組合結成 10 周年を記念してつくられた雑誌です。組合のこれまでの功績と成果を確認し、将来への指針とするべく、組合結成以来の歴史をまとめています。組合の活動記録としては、三本松公園(日吉町)や東町公園でのメーデー(昭和 26、30 年)、定期的な賃上げ要求の様子などが記されています。

●No.6『明善』

昭和 45 年(1970)

明善高校の県立制移行 90 周年を記念して創刊された雑誌で、同校の歩みと今後の展望が語られています。この雑誌には、久留米市出身の卒業生でオリンピック出場経験のある陸上選手・納戸^{の と と く し げ}徳重が、同校陸上競技部の回顧録を寄せています。久留米市では、昭和 51 年(1976)から納戸記念久留米陸上競技大会が開かれています。

●No.8『ちから 別冊 組合結成 20 周年記念号 1966』昭和 41 年(1966)

月星^{つきほし}ゴム労働組合結成 20 周年を記念してつくられた雑誌です。主な内容は創作や随筆などの文芸作品で、労働組合の生い立ちや活動記録については、資料不足により省略されています。歴代役員の回顧録では、戦後の食糧難のなか、レクリエーション活動により楽しみを見出しながら活動したとの声が多く挙がっています。